

# シフト・ワークショップ NEWS

最終号

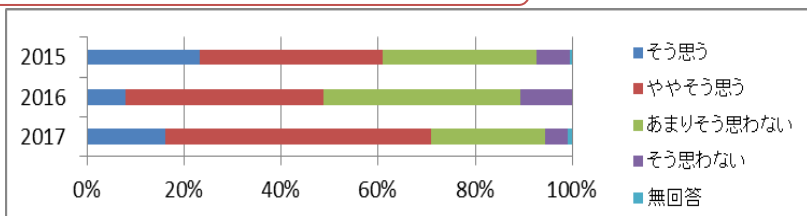
## インデックス調査について

昨年6月にみなさんのご協力のもと、4回目のインデックス調査を終えることができました。

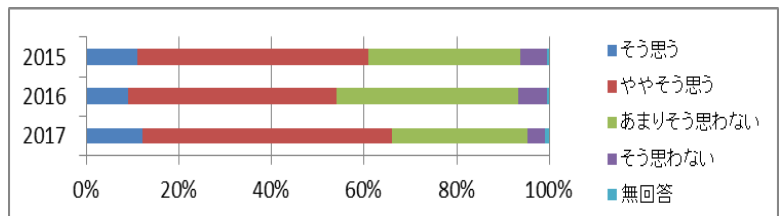
集計結果は各部署に資料配付しておりますのでご参照ください。

4年間の調査結果から働き方の満足度は年々増加傾向にあり、当院で長く働きたいと思っている人が増えています。健康面に関しては、腰痛・肩こりを自覚している方が多いという結果がでました。

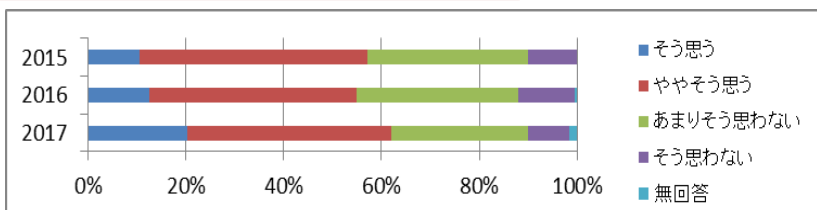
### 今の勤務先にできるだけ長く勤めたい



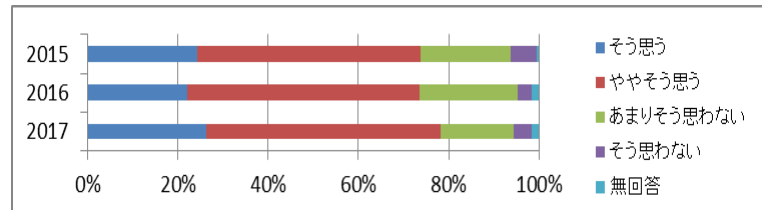
### 看護ケアに費やす時間が十分にとることができる



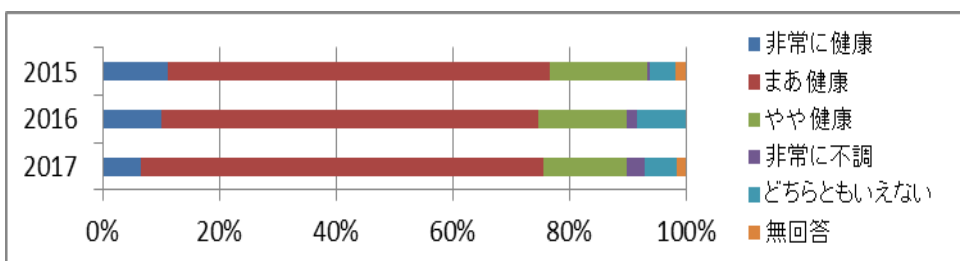
### 定時に終わることができる業務である



### 現在の働き方に満足している



### 現在の健康状態について



### 自覚症状

3年連続 同一順位!

- 第1位 ・ 肩こり
- 第2位 ・ 腰痛
- 第3位 ・ 疲れ目
- 第4位 ・ 頭痛
- 第5位 ・ 倦怠感



肩こり予防体操を実施します

各部署に配布した肩こり予防体操のパンフレットを参考に実施して下さい

腰痛予防体操と一緒に実施して下さい

#### 各部署の意見（一部抜粋）

- ・不慣れな勤務体制で連続夜勤が月に3回になる可能性もあり、今だと1日分くらいの休みにはなるが、引き継ぎ忘れや通勤時の交通事故など疲労によって起こすリスクもある。
- ・非常勤は常勤勤務が無理だから、非常勤になっている。
- ・現状の夜勤を連続勤務したとしても、そのあとに休みがもらえるなど部署長の配慮があり頑張れた。
- ・休みが減る分有給を使用するため、有給の消化率は増えるが、果たしてそれが良い消化率なのかは疑問。
- ・急な休みが出た場合に、勤務交代ができるのか。看護の質が落ちるのではないか。



#### ～意見から、働く職員の総意～

12時間夜勤の導入に関して、各部署で現場の皆様の意見を聴取した結果、常勤・非常勤共に、12時間夜勤では仕事と家庭の両立が難しくなるため協力しづらい。当院の強みである休みや勤務希望が通りやすいなどの魅力がなくなってしまうなど導入に反対する意見が多くあり、当面は現状の夜勤時間体制で行っていく事となりました。

#### <総括>

平成24年に12時間夜勤移行について検討するためのシフトワークプロジェクトが発足され、平成26年に健康で長く働き続けられる職場環境作りの推進事業参加に伴い、ワークショッププロジェクトが発足されました。活動していく中で、両プロジェクトの問題として業務改善や勤務体制の見直しなど共通する課題に直面し、平成27年にシフトワークワークショッププロジェクトとして統合されました。

平成27年度には就業前業務が平均8.6時間/月で約11時間/人/月のサービス残業を行っている実態が分かり、前残業をなくす取り組み（ワークシート内容の見直しと運用・委員会や委員メンバーの再編・啓発活動・内服自己管理）を行いました。結果、平均4.5時間/月で約1時間/人/月の前残業削減となりましたが、ゼロには至っておらず現在も各病棟で前残業を少なくする取り組みを行っています。また、内服自己管理に関しては、自己管理運用の適応できる患者が病棟により偏りが有り、標準化するまでには至りませんでした。この年に当院でも看護部手帳を作成し発行、平成29年に内容を見直し第1回目の改訂を行いました。平成28年度は「健康で長く働き続けられる環境とは何か」を再度見つめ直し、「心と体の健康維持」に焦点を当て取り組みました。夜勤時間の是正では、スタッフ間の夜勤時間数に大きな偏りがありましたが、スタッフや部署長の協力もあり、偏りのない夜勤時間の平坦化が測れました。腰痛予防対策やメンタルヘルス対策では、体操の普及やメンタルヘルスチェックの推進・カウンセリングに関する啓発活動を行いました。平成29年度の5月に3年間のワークショップ活動が称えられ、日本看護協会の坂本すが前会長より看護+α賞を授与しました。この年の活動と結果は、今回の紙面にある通りです。

最後に、シフトワークワークショッププロジェクトチームはH29年度で終了となりますが、看護職員皆様方1人1人がこれからも健康で長く働き続けられる環境の整備にご助力して頂ければ幸いです。

